

キリストの教えのとどまる

(ヨハネ第二 9 - 11) 「…先走って、キリストの教えにとどまらない者は、だれも神を持っていません。この教えにとどまっている者は、父も子も持っているのです。この教えを携えないであなた方のところにやって来る人がいれば、決して家に迎え入れてはなりませんし、あいさつのことばをかけてもなりません。その人にあいさつのことばをかける者は、その邪悪な業にあずかることになるからです。」

「キリストの教えにとどまる」とはどういうことでしょうか？

どうすればとどまることになり、どうすると先走る事になるのでしょうか？

あなたはどのように考えますか？

とにかく「キリストの教え」は聖書にあり、それ以外のキリストの教えとされているものはこの際却下するものとします。

さて、後は聖書をどう読みどう理解するかという問題で、何を以てして「キリストの教え」とするかということになりますが、

大別して次の4つほどの段階に分けることができると思います。

1 聖書に実際にその言葉で書かれている事をまずそのまま受け入れること。これが確定されなければ、「キリストの教え」も聖書そのものも誰にも理解できないものとなり、聖書の存在自体が無意味なものになります。

字句通りに受け止めてはならない箇所であるとするならば、そう主張する、それ相応の十分な根拠がなければなりません。

(数多くのギリシャ語写本がありますので、各翻訳の語句の違いなどは幾つかの訳を比較することによって相殺することができると思います。実際、広く知られているスタンダードな翻訳を2, 3調べるだけでこと足りると思います。)

2 普通の読解力のある人であれば、文脈の流れからほとんどの人によって当然の帰結として導き出される音信 (信仰の問題などではなく国語力の問題)

3 (聖書的解釈) 比喩的な表現などを含め、他の幾つかの聖句からの根拠がある故に導き出される音信。(そのように解釈できる可能性が高いが、そうでない可能性も決して否定できない。)

4 (教理的解釈) 何らかの既存の教理や宗教的感性が反映されて導き出される音信。(真に聖書的根拠と言えるものは薄弱、もしくはほとんど皆無で、それを支持する根拠どころかそれを否定する聖書的根拠とされるものも指摘されている。)

「キリストの教え」に安全確実にとどまっていると言えるのは前述1の段階でしょう。

そして検証の結果明白になった前述2の段階までが、とどまっているとみなせるでしょう。

前述3の段階は大変注意深くなければなりません。「先走って」いる可能性が十分に
あるからです。(コメントする側も「・・と理解できるが、現段階では明確には断定できない」

というような何らかのことわりを付加すべき事柄で、聞く側もそれを鋭く意識した上で思いにとめておくべき、という状況)

前述4の段階ではもう「とどまって」いるかどうかはかなり疑わしい状況です。少なくとも幾らか「先走って」いるのは確実でしょう。

にも関わらず、この4段階あたりの事柄を飽くまで主張し続けている人や組織があれば、その人に挨拶の言葉をかけるだけでもその邪悪な業にあずかる者と見なされてしまいます。

次に書いているのは、ある人とエホバとの会話の場面です。もちろん仮想場面ですが、内容は、現実にも即したものです。

「人よ、あなたは何をしているのか」

「あなたを待っているのです。」

「私の何を待っているのか」

「聖書にある言葉があなたからの音信であると言うことが雑誌か大会で公表されるまでは、私はそれを受け入れる事も、他の人に話すこともできないからです。ですから私は、ただひたすら、辛抱強くあなたを待っているのです。」

「人よ、よく聞きなさい。誰もが知っているように、聖書を通してすでに私は語り、あるいは書き記させ、そしてすでに2000年も前に完了した。そして今もそれは変わっておらず、今後も変わることはない。

私の言葉、聖書に記されている明確な言葉を、わたしエホバからの言葉として受け止め、人に語るのに、この上、何を待つのか。私がすでに語った言葉を受け入れるのに、あなたは誰の許可を必要としているのか。」

「わたしはあなたが用いておられる唯一の組織に忠実に従わなければならないからです。あなたのみ言葉、聖書の中にどれほど明確に記されているとしても、それが公表されない限り、あなたの言葉として受け入れることは許されておらず、それは無視するか保留にしておくべきことだからです。

あなたがどれほど明確に聖書の中で語っておられようとも組織が承認するまでは真理とはならないので、私としては、それを受け入れることも、他の人に話すこともできないのです。そして、勝手に先走る事なく、大勢の人から口を揃えて「エホバを待ちなさい」、と諭されていますので、それ故に私はただひたすらあなたのみ言葉が解禁されるのを待っているのです。

「人よ、あなたは誰を崇拝しているのか」